

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大岡山県聚楽郷にある采涼山で2015黄土高原ワーキングツアー参加者が記念写撮影。

Contents

- 第21回 GEN 会員総会のご案内 P 2
- 2015 黄土高原スタディツアー参加者募集 P 2
- 致富山プロジェクトのその後 P 3
- 黄土高原ワーキングツアー報告 P 4～5

2015.5
163

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第21回会員総会のお知らせ

緑の地球ネットワークは今年で24年目をむかえ、大同での緑化協力は節目を迎えています。

大同の緑化はずいぶん進み、ツアー参加者にこれまでの成果を確認してもらえらるまでになりましたが、いまままでおりの協力活動を続けることは難しくなっていて、今後の活動をどうするか、方向性を考える必要があります。これからの GEN の活動について議論し、考える場として多くのかたに会員総会にご参加いただきたいと思ひます。

いっぽう、国内活動では新たな動きがあります。関東ランチでは西伊豆での活動が定着し、国際ボランティア学生協会 (IVUSA) の学生約 100 名が黄金崎のツツジ再生プロジェクトに参加するなど新たな展開をみせています。

また、東日本大震災の津波被害を受けた地域の海岸林を再生させる取組

みに GEN も参加します。大同での経験や知識を日本の海岸林再生にどのように活かすことができるでしょうか。被災地での海岸林再生の取り組みについてのお話をうかがいながら考えていきたいと思ひます。

会員のみなさんには後日資料をお送りします。

【緑の地球ネットワーク 第21回会員総会】

○日時：6月13日(土) 13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時『生きものたちの記録～閑^{ゆりあげ}上海岸から高^{たかたてやま}嶺山まで～』

講師：大橋信彦さん(ゆりりん愛護会会長・名取市)

○会員総会：15時20分～16時40分

○場所：大阪市立阿倍野市民学習センター講堂(大阪市阿倍野区阿倍野

筋3-10-1-300 あべのベルタ3階
tel.06-6634-7951 地下鉄「阿倍野」
駅すぐJR/地下鉄「天王寺」駅、近
鉄「大阪阿倍野橋」駅より500m。

* * * * *

【会員総会後の懇親会のお知らせ】

◆会場：鼎屋 阿倍野筋店

◆時間：17時～19時まで

◆参加費：3,700円

◆申込み：6月10日(水)までにGEN
事務所まで。会員以外も参加できま
す。

予告 東北海岸林 再生活動に ご参加ください

東日本大震災から4年がすぎました。震災による大津波で、太平洋沿岸の海岸林は未曾有の被害を受けました。GENにも何かできることはないかとさがしていましたが、震災前から海岸林の保全活動を続けている「ゆりりん愛護会」のお手伝いをしようと、東北を訪ねて9月の植樹祭に参加します。

この機会に東北まで足を延ばし、海岸林再生の現場のようすを見てみませんか。

○9月12日(土) 11時30分仙台空港に集合 レンタカーで岩沼市へ移動。午後岩沼市寺島地区でおこなわれるゆりりん愛護会主催の植樹祭に参加 仙台市のホテルに宿泊予定

9月13日(日) 午前と午後名取市^{ゆりあげ}閑上地区の津波被災地を見学、午後3時ごろ解散

※現地集合、現地解散。

詳しくは次号でお伝えしますが、興味のあるかたは日程を空けておいてください。参加をご希望の方は GEN 事務所まで。

GENのホームページが 新しくなりました

GENのホームページを新しくしました。URLは<http://gen-tree.org>です。ご意見ご感想などぜひお聞かせください。

致富山プロジェクトのその後

陽高県朱家窩頭郷随土宮村は、一辺が400mの四角い土の城壁に囲まれた村です。村から南に1kmちょっと行ったところに致富山があり、私たちはここで1997年から4年ほど緑化の協力をしました。植えたのは主にアブラマツ(油松)です。

最近のツアーは大同県の采涼山プロジェクトやカササギの森を訪れるのが定番となり、そこに近い金山寺(大同県)や致富山からは足が遠のいていました。この4月、ツアーの人たちを見送ったあと、前中久行代表を誘って、久しぶりにここを訪れたのです。驚きました!

比較的順調に育っているのは、7～8年前に確認しています。ちょうど4月の清明節前、あちこちで数名のグループが双眼鏡を片手に山火事を警戒する活動に従事していました。私たちの車

も停止させられ、そのさいに「ここは日本人が植えたところだ」と告げられたのです。ちゃんと覚えてくれているんだな、とうれしく思ったものです。

いまみると、5～6mに育っており、りっぱな松林とっていいでしょう。ここにも「国家級公益林保護区」の看板が建てられ、しゃれた管理棟がありました(写真左)。最初、私はレストランかコーヒショップじゃないかと思つたくらい。管理に力が入っているようで、うれしいですね。

私たちが協力を終えたあとも、植林は継続されていて、ずいぶん面積が広がっています。ここにも国家プロジェクトが



きたのでしょうか。帰国してから Google Earth で現場をみると、致富山から金山寺にかけての帯には多くの造林地が密集し、一体化しているようすを確かめることができました。随土宮村は北緯40°11'20"、東経113°37'30"です。探してみてください。(高見邦雄)

報告 大阪湾で春の1日を楽しむ

松島 清 (GEN 会員)

4月4日 GEN 自然と親しむ会「渡し船で巡る大阪港とサクラ」をおこない、14名が参加しました。お天気に恵まれ絶好のお花見日和となりました。

今回の自然と親しむ会は、従来と趣向を変えて、「渡し船で巡る大阪湾とサクラ」であり、合わせて道中で中国との過去の接点も探訪するものであった。案内人は、地元で長らく港湾関係のお仕事に携わっておられ、GENの世話人でもある宮本敏幸さんでした。サクラは満開のタイミングであった



が、前日の天気予報は雨であり、せっかくの「花見」も台無しになるのでは、と危惧しつつ当日朝を迎えると、なんと「晴れ」であった。結果、暑いくらいの陽気のなか、予定どおり3か所の渡し船(天保山、千歳、甚兵衛)にも乗り、およそ10kmの道のりで「大阪湾とサクラ」を堪能することができた。

当日の参加者は14名で、講師の宮本さんから地元の歴史を踏まえた詳細な解説をお聞きするには丁度良い人数であった。今回見聞きしたなかでのトピックスは、何と言っても「渡し船」である。渡し船は、大阪市建設局が所管しており、道路における「橋」の代わりとしての機能であり、したがって料金はすべて無料であった。3か

所とも多くの方(H20年実績:天保山900人/日、千歳750人/日、甚兵衛1,570人/日)に利用されており、とりわけ自転車をそのまま乗り込めるため、自転車利用者が多いのには驚かされた。

天保山周辺には、中国との関係を示す碑がいくつかあり、なかでも天保山公園にあった日中友好の記念碑「彰往察来」(過去を明らかにして未来を察する)は、GENの元副代表であった有元さんの筆によるものであるとの説明もあり、いろいろな意味でGENのメンバーの活動範囲の広がりを実感した。

また、今回の最大のビューポイントは急坂のなみはや大橋の橋上からの眺めで、東は生駒山・二上山、西は明石海峡大橋の主塔を確認できた。

おまけになりますが、終着点の朝潮橋駅に到着したあと、有志で八幡屋公園で満開の桜の下で盛大に花見をおこなえた。それもこれも、講師宮本さんのネットワークのおかげであった。感謝! 感謝!

参加者 募集

2015 黄土高原 スタディツアー

8月後半、初秋を迎えた大同で村の人といっしょに木を植えますか。そのほか黄土高原に咲く花々を眺めたり、村で食事をご馳走になったり、たくさんの出会いが待っています。

参加費用は燃油特別付加運賃等を含んだ金額です。学生のかたは割引料金で参加できます。

○日程:8月22日(土)～28日(金)

○費用:一般180,000円(学生割引30,000円)(国際航空運賃、中国国内の交通費/宿泊費/食費、燃油特別付加運賃、空港使用料を含みます。年会費〈一般=12,000円、学生=3,000円〉、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含みません)

※関西空港または羽田空港発着。全日本空輸(ANA)利用

○訪問先:中国山西省大同市(北京経由)

○定員:30名程度

○最少催行人数:12名

○申込み締切り:7月23日(木)(先着順)

☆参加ご希望のかたはまず GEN 事務所までご連絡ください。申込書類の準備ができましたら(株)マイチケットからお送りします。



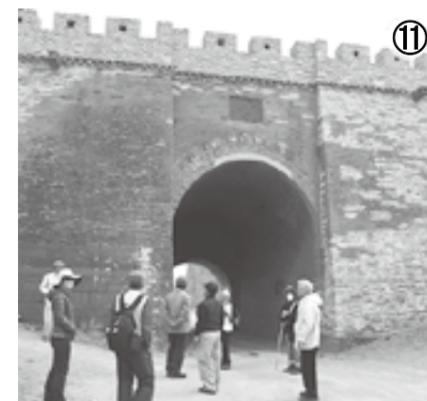


2015 黄土高原ワーキングツアー

2015年のGENワーキングツアーは12名が参加し、4月11日～17日の日程でおこなわれました。少人数でしたが和気あいあいと過ごした7日間、この号では写真を中心にをご紹介します。



写真①まずは南天門自然植物園へ。午前中は園内にオノオレカンバを植樹しました。午後は上まで登り、春の黄土高原の景色を楽しみました。②帰りに上北泉村に立ち寄り、満開のアズのお花見をしました。③3日目の午前中は渾源县懸空寺を見学。そのあと呉城村に移動し村の人と一緒にアズノ植樹をしました。④呉城村ではアズノの開花はまだでしたが、農家で肉や魚やキビ餅などおいしいご飯をたくさんご馳走になりました。⑤午後は村の小学校を訪問しました。⑥参加者のひとりが持参した紙飛行機やストローのおもちゃに子どもたちは大喜び。⑦上北泉村にいたカササギ



見かけない野菜や果物にみな興味津津、果物やお酒など各自気になるものを買入りました。果敢に値引き交渉に挑んだ人も。5日目は午前中に采涼山とカササギの森を見てまわりました。⑪午後は強風のなかでしたが、新栄区得勝堡の万里の長城を見学しました。⑫6日目、午前中雲崗石窟を見学し、午後は万人坑を訪問。⑬そのあと環境林センターのあった口泉植物園を歩きました。管理棟のシダレニレは今も残っていました。この日の夜に夜行列車で北京へ向かい、早朝北京に到着。午前中道教のお寺白雲観を見学し、無事日本に帰国しました。⑭緑の地球環境センターのオキナグサ

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

京都御苑の自然を観察しよう

木々の緑がまぶしくなる季節、京都御苑を歩いて自然観察を楽しみませんか。京都御苑には約5万本の樹木があります。この季節、どんな植物との出会いがあるかどうぞお楽しみに。

○日時：6月6日（土）10時～15時ごろ※小雨決行

○集合：10時に地下鉄「丸太町」駅北改札

○案内：前中久行さん（GEN代表、

元大阪府立大学大学院教授）

○持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、あれば植物図鑑、帽子、雨具

○参加費：700円

○定員：20名

○問合せ・申込み：6月3日（水）までに GEN 事務局までお名前、年齢、連絡先をお知らせください。



いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000円
家族会員（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。現在、運営資金が不足しています。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。
*緑化基金の20%は事務管理費になり

ます。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。郵便局で切手等に交換します。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■外国コイン・商品券など回収中

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務局から連絡します。

省エネ住宅ポイントで GEN に寄付できます

エコ住宅の新築、エコリフォーム制度でもらったポイントを GEN に寄付することができます。GENの事業者コードは K085 です。詳しくは省エネ住宅ポイントのホームページ (<http://shoenejutaku-points.jp/>) をご覧ください。

助成金が 決まりました

公益信託経団連自然保護基金の2015年度支援事業として緑の地球ネットワークの「多様性のある森林再生第6期（南天門自然植物園の建設と運営）」に3,861,000円の助成が決定しました。

南天門自然植物園の運営に生かされます。

【GENへの寄付は税制上の 優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2019年4月8日まで）。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくは GEN までお問い合わせください。

黄土高原史話<73>

孝文帝の大芝居

いま大同近くの桑乾河に水がないことを皮切りに、つづく3回分、桑乾河の名前の由来を求めて、その上流から下流の永定河までたどったが、今回からふたたび北魏時代の平城（大同）に。ただし、「平城最後の日」の前後。

太和十七年（439）、孝文帝はとつぜん南朝・齊を親征すると言い出して、歩兵・騎馬三十余万を動員し、7月己丑平城を発ち、9月庚午洛陽に着く。雨なお降りつづくなか、ヨロイ姿に身をかため、馬にまたがり現われた孝文帝、諸軍に出撃を命じます。そのとき尚書李冲らは、馬前にひれ伏し、なんとか南征をやめさせようと、必死に諫言をこころみる。

「こたびの遠征、だれ一人として願う者はおりませぬ。なにとぞ思い止まりますように」
聞くや帝は激怒して、「天下を統一せんとしておるのに、汝ら計画に水をさすのか。さらに言うべからず！」

と叱りつけ、馬にムチ打ち、進発しようといたします。しかして、軍司令官の安定王拓跋休らは、涙を流しつつ、なおも諫言をくり返す。ようやくのこと孝文帝、しぶしぶ群臣に告げていう。

谷口 義介（GEN 会員）

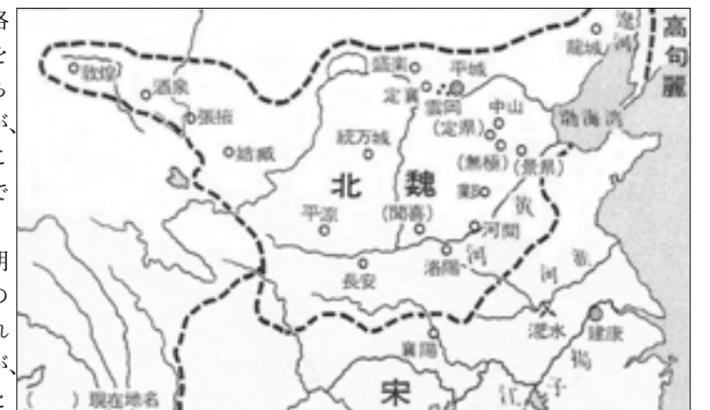
「いささか激して南征の軍を起こしたが、もしも成功しなかったら、後世への示しがつかぬ。代々北の地にいたが、かねてより中原に移ろうと思っていた。いま南征しないとすれば、せめてこの洛陽に都を遷さんと考える。遷都に賛成する者は左に、反対する者は右に並べ」

平城での長い生活になれた身には、そこを離れるのは忍びないが、はるばる南征するよりは洛陽遷都の方がまだましか。こう考えた群臣は、こぞって左側に寄り、遷都賛成を表明したという（『魏書』巻53李冲伝）。

けだし、孝文帝が言い出した南征とは掛け値にほかならず、群臣に値切ら

れ仕方なく洛陽遷都で手を打ったかたちにしたが、じつはこれこそ帝の本意であったのだ。

魏晋南北朝時代、屈指の明君と称される孝文帝だが、その性豪放と



柴帥さんのブログより

GENのカウンターパート、大同市総工会の副主席、柴京雲さんの娘さんと、著名な二胡奏者の柴帥さんのブログで下記の内容が掲載され、多くの反響があったそうです。民間のつながりの大切さを感じさせられます。

12月13日、第1回全国南京大屠殺記念日を迎える日、わたしは1人の日本人と同席した。高見邦雄さん、土鍋のようなしわがれ声のごく普通のおじさんである。

1992年から今日に至るまで、彼は毎年、年に数回日本と中国を行き来している。日本の民間人から資金を集め、その資金を中国の貧しい地域に持って行って木を植える。そしてまた資金を集めて木を植えて……、22年！ 22年

ものあいだ、ずっとそれをつづけてきた。かつて荒地だった采涼山は、いまでは50万本のマツが育つ立派な林になり、カササギの森では550haの土地に163万本の木がぐんぐんと成長している。貧しい山地に建設した小学校付属果樹園のおかげで、何十名もの子どもが学校をやめずに安心して学業を終えることができた。

この非営利の民間組織は「緑の地球ネットワーク」といい、この22年間で

いうよりは、思慮ぶかく細密な人柄で、ものごとを慎重かつ合理的に処理するタイプだったらいい。しかしてこのエピソード、一世一代のスタンドプレーというべきか。

これよりまえ、第3代太武帝時代（424～451）にも洛陽への遷都が浮上したが、このときは立ち消えに。北方から平城をうかがう強敵がいたからだ。しかし、馮太后時代に実施された三長制・均田制により国力が充実、かねがね北魏の文明化をめざした孝文帝にとって、中華文明の中心地＝洛陽への遷都は、悲願といえるものだった（本シリーズ<60>「中国化」がコンセプト）参照。

しかし、この遷都計画は「着々と周到に」というよりは、むしろ唐突になされた形跡がある。

植えた木の数は1885万本にも達し、植栽面積は5812haにもなる。この数字は人をただ驚かせ、感動させる。これは高見先生と多くの日本人ボランティアのたゆまぬ努力の結果である。

別れ際、高見先生は韓国経由で日本に帰国すると知った。航空運賃が安いという理由で。わたしはただ思った。環境に国境はなく、真心に国境はなく、善良さに国境はない……。



大阪産業大学市民講座
アズキと東アジア

アズキという身近な商品を素材に、東アジアの経済発展と通商問題や中国産小豆の将来にわたる安定輸入の可能性について「消費者目線」で考えます。

- 日程：6月6日「小豆と日本人」／6月13日「韓国・台湾の小豆消費と農業保護」／6月20日「中国産小豆はいつまで買えるか」時間はすべて13時～14時30分
- 講師：田嶋俊雄さん（大阪産業大学経済学部教授）
- 会場：大阪産業大学本館3階0302教室（6月13日、20日は9号館3階9301教室）
- 定員：100名
- 受講料：無料
- 申込み方法：大阪産業大学HP (<http://www.osaka-sandai.ac.jp/sanken/>) からお申込みください。
- 主催・問合せ：大阪産業大学産業研究所事務室「市民講座」係（〒574-

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

8530 大阪府大東市中垣内3-1-1
tel. 072-875-3001（内線2814・2818）
fax. 072-875-6551 e-mail: shi-kouza@cna.osaka-sandai.ac.jp

tanakan3@cronos.ocn.ne.jp

CODE 海外災害援助市民センター
ネパール地震被災地支援活動
派遣スタッフ報告会

4月25日に発生したネパール地震。5月に現地を訪れたCODEスタッフによる報告会をおこないます。被災地の状況や支援の可能性についてお話しします。

- 日時：6月1日（月）18時30分～20時30分ごろ
- 場所：こうべまちづくり会館2階ホール（神戸高速「花隈」駅東口徒歩3分）
- 報告者：吉椿雅道さん、上野智彦さん（CODEスタッフ）
- 参加費：無料
- 主催・申込み・問合せ：当日参加も可能ですが、なるべく事前にメールもしくは電話でお申込みください。CODE 海外災害援助市民センター（〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10 tel. 078-578-7744 fax. 078-574-0702 e-mail: info@code-jp.org）

小夏とたまねぎの
ご案内

土佐の初夏の味、小夏とたまねぎはいかがですか。

◎土佐小夏

A	5kg	4,000円
B	3kg	2,500円
C	家庭用 5kg	3,000円

◎おいしい玉葱（低農薬、有機肥料）

白たまねぎ 5kg 1,900円

※送料別途。関東860円 関西650円（20kgまで）

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel./fax.0887-29-2500 e-mail